

整形外科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

平成16年から、医師免許取得後の2年間の臨床研修が必修化されました。臨床研修における必修科目は、内科、外科および救急部門（麻酔科を含む）、小児科、産婦人科、精神科及び地域・保険医療となっていて、整形外科は含まれていません。しかし、厚生労働省が提示した臨床研修の到達目標の中には整形外科関連疾患が数多く含まれています。将来整形外科医を目指す研修医は、初期研修の2年間の中で選択研修ができるようになっていますが決して十分でないのが現状であり、後期研修においてしっかりとしたプログラムの下で研修することが必須であります。静岡県は整形外科医がまだまだ不足しており、各地域においてニーズに応えられる整形外科医を充足させるべく、静岡県に特化した卒後3年目以降の研修教育プログラムを作成しました。



整形外科診療の中でいくつかのサブスペシャリティがあります。脊椎・関節・スポーツ疾患・手の外科・骨軟部腫瘍・関節リウマチ・外傷など多岐にわたります。整形外科研修の間にこれらの症例を経験し、次第に自分で治療を行うようになってきます。そのためには、整形外科全般について一定のレベルになるまでは総合的な整形外科研修を行うのが一般的です。骨折・脱臼などの外傷に関しては、整形外科の基本と言えますからこの期間に積極的に症例を治療するようにして、外傷治療を習得してもらいます。整形外科全般について一定のレベルに達したと判断された場合には、整形外科の中の専門性（脊椎・肩関節・股関節・肘関節・手・関節リウマチ・膝関節・骨軟部腫瘍など）のある分野について、さらに深く研修するのがよいでしょう。この場合も、整形外科専門医になる前の段階ですのでひとつの専門だけを研修するというのではなく、他の分野についても一定の研修は続けます。このように考えてくると、整形外科の研修を一つの病院で行うのは無理があると思われます。静岡県内において多くの指導者に接し、それぞれの指導者について、得意な分野を研修することでいろいろな分野についてエキスパートとなっていくわけです。

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。また整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。本研修プログラムでは、いくつかの施設や指導者の下で効率よく研修ができるように、事務局が主体となって各研修医師の評価を行い、ニーズに合った研修ができるように作成されています。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部整形外科 教授 松山 幸弘

2 目的

本研修プログラムでは、初期臨床研修を終えた医師を対象としている。

- (1) 整形外科疾患に適切に対応できる基本的な知識と、診断・治療技術を習得し、3年9か月の整形外科研修の後に「整形外科専門医」取得する。
- (2) 明らかにされていない病態解明や新しい治療法・治療器具の開発に将来取り組むことのできる知識とアプローチ手法を学び、将来の医学・医療を牽引するような人材を育てる。

3 目標

整形外科専門医取得について

2017年度から従来型の整形外科研修制度と、新専門研修制度で検討してきた新しい整形外科研修プログラム(暫定プログラム)を選択できるようになり、本研修プログラムは暫定プログラムに基づいて研修を行っていきます。日本整形外科学会認定整形外科専門医は、卒後初期研修期間2年間ののち、日本整形外科学会会員となり日本整形外科学会の認定施設で臨床研修3年9か月で45単位取得で修了後、受験資格が得られます。本プログラムに参加している研修施設は日本整形外科学会の認定施設であり、専門医取得に必要な臨床症例教育、論文・学会研究発表の指導を行っています。

4 特徴

研修プログラムの中で、各プログラム参加者の研修に偏りがないように、大学を含めた3か所程度の研修参加施設をローテートしてもらいます。研修参加施設をローテートは評価委員会でプログラム参加者の中間評価、または年度末評価を行った上で、運営委員会にて決定します。

評価方法

各施設の研修責任医師により、評価委員会で定められた評価基準に基づき評価を受ける。研修責任医師は評価した内容を評価委員会に報告する。

プログラムの修了の認定

本専門医教育プログラム開始後4年を経過した時点で上記の評価をもとにプログラム修了の認定を行う。

5 研修カリキュラム

研修1年目

新鮮創傷処置、骨折手術(一般的なもの)、各種手術のサポート

研修2年目

骨折手術(比較的複雑なもの)、関節手術(関節鏡視下手術を含む)、四肢切断術、神経・腱の手術、良性腫瘍手術、各種手術のサポート

研修3年目

骨折手術(比較的複雑なもの)、関節形成術(人工関節手術を含む)、脊椎手術(椎弓切除術)

研修4年目

骨折手術(複雑なもの)、筋腱靭帯手術、四肢長調節手術、関節形成術(人工関節手術を含む)、脊椎手術(腰椎椎間板ヘルニア、後方固定術、前方固定)

総合的な整形外科研修期間は整形外科研修開始から3年9か月です。この期間は整形外科病棟で入院患者を主治医として担当し、担当患者の手術については、助手として参加し、整形外科手術治療の流れをつかみます。整形外科の中で多くの分野がありますので、これらの分野を順に担当して、整形外科全般にわたって知識・考え方・治療プランなどを学んでいただきます。習熟の程度と手術の難易度によって、実際の術者として手術に参加してもらいます。指導は主に入院指示者である術者が行います。この最初の2～3年間に整形外科医の基礎が確立するように、一人でも多くの患者を受け持ち、1例でも多くの治療に参加するという態度で研修を行っていただくと、かなりレベルの高い一人前の整形外科医への道が開けます。

整形外科外傷については、指導医の元で診断・治療を一貫して行います。6ヶ月から1年間くらい病棟主治医を経験した後に、外来診療も行います。もちろんこの時点で外来患者の治療方針を決定できるとは思いませんが、経験しながら、勉強と指導によって外来診療をこなしていくことも診断能力を上げるために必要かと思えます。リハビリテーション医療のかなりの部分に整形外科治療が関係しています。リハビリテーションに関しても研修の希望がある場合には、調整できます。一時期リハビリテーション医療を行うことは、将来整形外科医として活躍するために役に立つことと思えます。

6 研修例

| | 研修開始前年度 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 |
|-----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 4月 | | 研修開始 | | | |
| 5月 | | | | | |
| 6月 | | | | | |
| 7月 | | | | | |
| 8月 | 参加希望者募集 | | | | |
| 9月 | | 中間評価 | 中間評価 | 中間評価 | 中間評価 |
| 10月 | | | | | |
| 11月 | | | | | |
| 12月 | 参加希望者締切 | | | | |
| 1月 | 参加者決定・通知 | | | | 専門医試験 |
| 2月 | | | | | 最終評価 |
| 3月 | | 年度末評価 | 年度末評価 | 年度末評価 | 修了書授与 |

7 研修病院群

- ①浜松医科大学医学部附属病院 ②静岡市立静岡病院 ③藤枝市立総合病院 ④菊川市立総合病院
 ⑤磐田市立総合病院 ⑥JA静岡厚生連遠州病院 ⑦浜松赤十字病院 ⑧中東遠総合医療センター
 ⑨十全記念病院 ⑩浜松医療センター ⑪富士宮市立病院 ⑫静岡済生会総合病院 ⑬榛原総合病院
 ⑭市立湖西病院 ⑮公立森町病院 ⑯聖隷浜松病院 ⑰聖隷三方原病院

8 研修期間

- ① プログラム全体の研修期間は3年9か月間
 ② プログラム全体を通して、全17施設の中から、原則的に1病院あたり12ヶ月以上の期間の研修を行うこととし、3病院以上をローテーションする。